

# ぐりふぁん letter



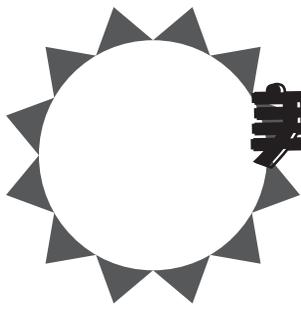
Vol.  
24  
2012.6

## INDEX

- ◆美山おひさまプロジェクトがはじまります。  
田歌舎紹介 2
- ◆伏見おひさまプロジェクト  
トトロ先生のウェールズ日記 3
- ◆きょうとグリーンファンド 事業評価に関する調査報告書 4 - 5
- ◆総会報告  
新理事紹介 6
- ◆ボランティア日記  
編集後記 7

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)

きょうとグリーンファンド



# 美山おひさまプロジェクト

～美山を自然エネルギーの里に～  
が始まりました。

今年のおひさまプロジェクトは、南丹市美山町田歌にあるスローフードとアウトドアのお店「田歌舎(たうたしゃ)」に、10kW規模の太陽光発電を設置しようというプロジェクト。

田歌舎の代表藤原さんは、「東日本大震災と福島第一原発事故を受けて、エネルギーの変換に二の足を踏んでいてはならないと強く考えました」と設置申し込み書に書いてくださいました。ちなみに、美山町は若狭の原発群から30km圏内。「食・住」の自給率の高い田歌舎で、自給出来ていないのは「電気」。今まで何の関心も払わずに「スイッチON」だった電気は、実は「私たちが電源を選ぶこともできないもの」になってしまっていました。でも、太陽光発電を設置すること、他の自然エネルギーを活用することは、私たちが「使っていきたい」エネルギーを地域独占の会社に委ねなくてもいいことでもあります。

田歌舎のみなさんは、美山町全体に小水力やバイオガスなど自然エネルギーの「ベストミックス」の流れを広げていきたいと考えておられます。

南丹市美山町では2009年に設置したアースガーデンについて2カ所目のおひさま発電所となりますが、きょうとグリーンファンドは今までに蓄積してきたノウハウを活かし、最大限のサポートをしたいと思います。みなさんのご協力を、よろしくお願い致します。(きょうとグリーンファンド 大西 啓子)



スローフードとアウトドアのお店「田歌舎」は田畑と菜園による農作物と、狩猟、採集による獣肉やきのこなどを使った本格的なスローフードレストラン。施設にある建物はすべてスタッフたちの手作り。ショップでは田歌舎の商品の他、田歌集落の人の手による田歌が育んだ農作物や加工品など、田歌の暮らしを感じることが出来る商品が並びます。宿泊やアウトドアツアーなど様々な自然体験もあり、まさにグリーンツーリズムを満喫できる施設です。

## <おひさま発電所を作りたい！—田歌舎の思い>

田歌舎では「住、食」のほとんどを自給しています。だけど田歌舎にとって日常からたくさん使っているのに、自分たちの手でなかなか作れないもの。それが「電気」なのです。昨年の大きな大きな地震を経て、私たちが出来ること、しなくてはならない事は原発からの脱却だとスタッフ一同強く感じています。原発30キロ圏内のこの町で、まず自分たちが「おひさま発電所」の仲間となって自然エネルギーをつくる、そして原発撤廃の願いの輪を広げていきます。

自然豊かな美山町というPRを止めて、  
「大飯原発30キロ圏内の町、美山町ようこそ！」

～美山町民は原発反対の意を示すために、  
自然エネルギーの町を目指します。～

まずは美山町でこんな流れを生みたいのです。

田歌舎代表 藤原 啓

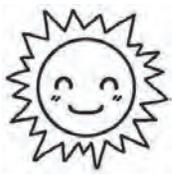
〒601-0702

京都府南丹市美山町田歌上五波1-1 TEL/FAX: 0771-77-0509

E-mail: field-songs@tautasya.com

URL: http://www.tautasya.com





# 伏見おひさまプロジェクト

## ～ちょっと新しい形の始まりです～

このプロジェクトは、今までのように設置の施設と補助金の採択が決まって、寄附のキャンペーン、点灯式という流れにはなりません。まず設備の約半額を賄っていた補助金がなくなりましたし、設置施設もまだ決まっています。

では、どう進めていくのか。

私たちは、以前からまちづくりの一環として「おひさま発電所づくり」を発展させたい、という思いを持っていました。地域の身近な施設に、地域の人たちが協力して「おひさま発電所」を次々とつくっていく形です。行政任せではなく、自分が住む町を自分たちで良くしていく、という動きの一つとして定着すれば、エネルギーを自分のこととして考えるきっかけとなるのではないかと。これは、生活の中での個々の節電、省エネと、社会のありようを変えていく流れをつなぐものと考えているのです。

今回のプロジェクトは、自然エネルギー学校・京都の修了生有志や地元のきょうとグリーンファンド会員が中心となって「伏見おひさま市民の会」を立ち上げ、まず伏見区内の公共施設を対象に「市民協働おひさま発電所」設置を呼びかけるところから始まりました。伏見区の市民が「あそこに太陽光発電があつたらいいのになあ…」という施設があつたら募集要項をもって「一緒にやりませんか、みんなも協力します」と働きかける、といったことを期待しています。児童館や私立学校、もちろん保育園や幼稚園…。

呼びかけ文の抜粋です。

～伏見の子どもたちにどのような未来を残すことができるのか、私たちは他人任せにするのではなく「出来ることから始めよう」と、自分たちのまちを変えていく営みのひとつとして、このたび「伏見おひさまプロジェクト」を進めることになりました。

きょうとグリーンファンドは事務局を担当し、今までに培ったノウハウを活かします。

資金調達は、寄附金、そして設置協力金、きょうとグリーンファンドのおひさま基金、施設の自己資金などで賄う計画です。今まで設備費用の約半額を賄っていた補助金がなくなったので、かわりに「設置協力金」という形を考えています。これは、1口10万円の協力をお願いして設置費用の一部を賄い、5年目に一括返済するもので、返済金はこの7月から始まる「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」によって高く買い取ってもらえる電力の売り上げなどで賄います。市民からの「意思ある借入金」といったものと考えています。

加えて、設備の価格もこのところかなり下がってきたこともあり、なんとか実現にこぎつけられるのではないかと思います。この仕組みで足元から地道に原発も温暖化もない未来をつくりたい。補助金に頼らない、本当の意味での「市民協働おひさま発電所」づくりが12年目によく始められそうです。

(きょうとグリーンファンド 大西 啓子)

### トロ先生の ウェールズ日記

トロ先生こときょうとグリーンファンド理事長板倉豊先生は現在、イギリスのCAT / The Centre for Alternative Technologyにて研修中。CATは、英国ウェールズのマンスレスと言う町の郊外にある、地球環境と調和した生活を提唱するテーマパークです。

2012/5 Machynlleth, (マンスレスと発音します) Wales,

ウェールズの田舎暮らしも1ヶ月たちました、農家の離れをかりています。夜は寒いので薪を燃やしています。燃やすのがへたくそなので家中煙だらけです!毎朝大家さんの鶏小屋からすきなだけ生みたて卵をとってきてもいいので卵のとりすぎです!CATでの勉強もぼちぼちすすんでいます。日本からの見学者も最近おおくなってきたようです。先週は北海道のエコネットのグループが見学にこられました。

2012/6 Machynlleth, Wales,

マンスレスの村の人は親切で、時々ラーメンや丼もの、お好み焼きなど食べたくなりますが、ライ麦、えんばくなど粒がたくさんはいったパンにも慣れてきました。

こちらの家の電気代は、村のスーパーみたいな雑貨屋で電気のキーを買いまして、例えば使う予定の電気代50ポンド(6000円位)をレジで支払い、それを家の電気メーターにさしこんで使います。どれだけ電気を使うか、使ったかがよく認識できて節電につながるの、日本のように一方的に電気代を要求され、自動的に銀行から引き落とされるよりいいシステムだと思います。重いリュックサックをかつぎすぎて50肩(こちらではstiff shoulderというそうです!)になって毎日湿布しています。

2012/6 Machynlleth, Wales,

板倉のウェールズ田舎暮らしも3ヶ月目にはいりましたが、相変わらず気温は15℃程度で寒いです!でも周りの自然は春をむかえたようで花が沢山さきました。家の周りに赤紫色のFOXGLOVEというリンドウのようなホタルブクロのような花がいっぱい咲いています。まるまるとしたクマンバチが蜜をあつめに花の房の中にもぐりこんでいます。

# きょうとグリーンファンド 事業評価に関する調査報告書（抜粋）

立命館大学理工学研究科 松本和晃

## 1. 調査概要

きょうとグリーンファンド（以後 KGF）の 10 年間に渡る事業の成果を確認するために、アンケート調査を実施した。幼稚園・保育園の職員および保護者を対象に、KGF 事業実施園・未実施園の双方で調査を行い、事業の有無による違いを比較した（サンプル数 1209、回収率約 46%）。アンケートには KGF が実施する各種イベントや環境への態度、環境配慮行動に関する設問計 177 問を導入し、事業に対する対象者の反応と、環境への姿勢や取り組みの程度を把握するものとした。

## 2. イベントへの参加と評価

各イベントに対する職員・保護者の参加率と評価を、図 1 および図 2 に示す。評価は 1～5 点、得点が高いほどよい評価であることを示している。

事前研修の評価では、理解度（設問：おひさま発電所は必要だと思う）の得点が特に高かった。おひさま発電所を園に導入するプロセスとして、事前研修は一定の役割を果たしていると考えられる。点灯式は職員・保護者ともに参加率が高く、おひさま発電所の設置を周知するという点で一定の役割を果たしていると考えられる。環境腹話術は職員の参加率が特に高く、評価も職員・保護者ともに高い結果となった。幼稚園では参加した保護者がいないのに評価がつけられていたのが、これは記載ミスである可能性が高い（自然観察会も同様）。自然観察会は、参加率が非常に低い評価は非常に高いという結果となった。参加率が低いのは開催回数自体が少ないからだと考えられる。

幼稚園と保育園の結果を比較すると、幼稚園の方が職員・保護者共に各イベントへの参加率が高い傾向がみられた。これは、教育施設である幼稚園と保育施設である保育園の違いを反映した結果であり、教育に対する関心の高さが、参加率の差となって表れたと推測される。同じイベントを実施する場合、幼稚園の方がたくさんの参加者が集まり、また熱心に参加してもらえる可能性がある。

## 3. 態度と行動

環境への態度、環境配慮行動に関する各項目の得点を図 3 および図 4 に示す。得点は 1～5 点、得点が高いほど環境にやさしい回答であることを示している。ただし、「逆」と記載のある逆転項目では、得点

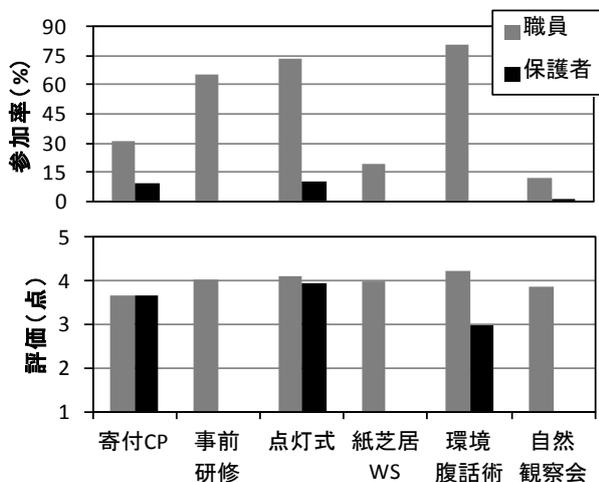


図 1 イベントへの参加率と評価（幼稚園）

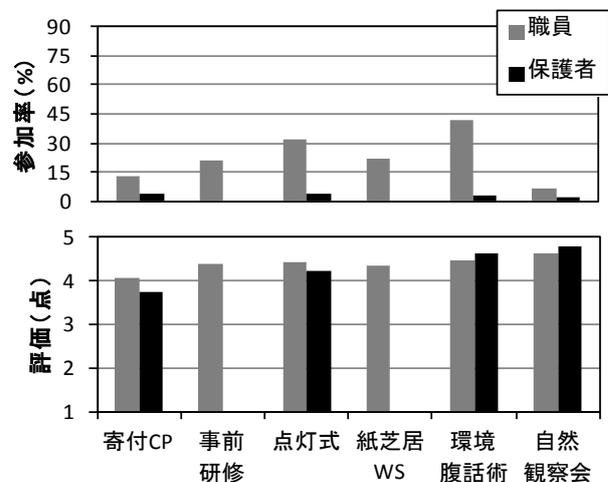


図 2 イベントへの参加率と評価（保育園）

が低いほど環境にやさしい回答となっている。

職員は未実施園でも得点が高く、実施園との間でそれほど大きな差は確認できない項目が多かった。職員の環境に対する態度や行動は初めからかなり高水準であるということが出来る。ただし、保育園では園での行動実施度に有意な得点差が確認できており、事業によって園での環境への取り組みが促進されたといえる。また、幼稚園では地域での行動において実施園の得点が有意に低くなっていた。これは、KGF 事業の実施により「園や地域で取り組める行動」のイメージが豊富になった一方、地域での取り組みがイメージに追い付いていないため、相対的に実施度や評価の得点が低下したと推測される。保育園と幼稚園の結果を併せて考えると、保育園では園での行動が向上し、幼稚園ではそれに加えて行動としてイメージされるものの水準も向上したと考えられる。

保護者に着目すると、保育園では態度に有意な差が確認された。幼稚園では態度に加えて行動のいくつかの項目で有意な得点差が

確認された。KGF 事業によって、保護者の態度や行動を環境にやさしいものにシフトさせることができているといえる。地域での行動は実施園の得点の方が低くなっていたが、これは職員と同じ理由によるものだろう。KGF 事業が直接的に保護者に影響を与える機会は限られている状況下でこれだけの得点差が確認された

ということは、KGF 事業によって各園に環境への取り組みが根付き、それらが保護者の態度や行動に影響を与えていることの表れだと考えられる。

幼稚園と保育園を比較すると、職員・保護者ともに保育園よりも幼稚園の方が大きな得点差が確認される結果となった。これには教育に対する関心の程度が影響していると考えられる。普段から教育への関心が高い幼稚園の方が、KGF 事業を実施した際の影響が大きくなる可能性があるだろう。

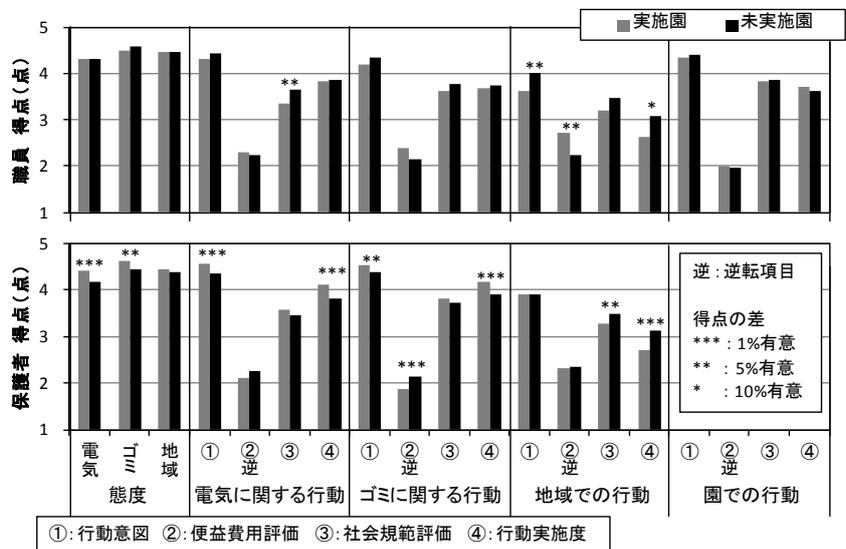


図3 態度と行動の得点 (幼稚園)

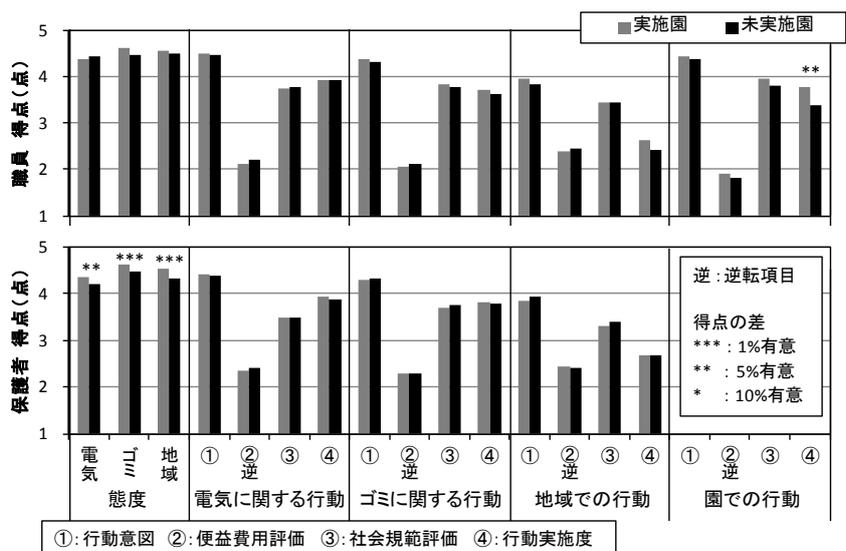


図4 態度と行動の得点 (保育園)

2011年度は残念ながら、おひさま発電所の設置ができませんでした。2010年まであった国からの設備に対する補助金が姿を消したことにより、「おひさまプロジェクト」の資金調達の枠組みが全く崩れてしまったのが、主な要因と言えます。私たちは、2012年7月から導入される「再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度」と太陽光発電設備の低価格化によって補助金がなくても費用負担は充分カバーされますよ、という流れとなったのだと理解しています。

昨年度後半からは新しい枠組み作りに努力し、2012年度は南丹市美山町と京都市内でおひさまプロジェクトを進めることになりました。原発や化石燃料に依存しない持続可能な社会を実現させる現実的な取り組みとしての「おひさまプロジェクト」。今年度からは、新たな枠組みで、地域の市民を巻き込んだ形を意識して進めたいと考えています。

理事会も4名の新しいメンバーを迎え、今まで理事として支えてくださった方々の思いを引き継ぎながら新たな議論の展開に期待をしたいと思えます。

市民(共同)協働発電所をつくって12年目、きょうとグリーンファンドは、補助金に頼らない真の意味での「市民(共同)協働発電所」づくりに踏み出した感があります。

## 新理事ご紹介

### ・・・ 阿蘇 紀夫理事

「この度、理事に選任していただいた阿蘇です。平成15年から5年間、京エコロジーセンターで事業長として勤務させていただいたことから、きょうとグリーンファンドの皆さんとも親しくさせていただき、今回、皆さまの仲間に加えていただきました。現在は東大阪市内で主に活動している東大阪市民環境会議というNPOのメンバーです。自宅も仕事も大阪なので、どこまでお役に立てるかわかりませんが、できることはさせていただきますので、よろしくお願いします。

### ・・・ 中田 利享理事

京都で誕生した「KES環境マネジメントシステム」の立ち上げから参加して11年余りになり、中小企業の皆さんと仕組みづくりと環境改善のための活動を共にしてきました。ここでの経験は仕組みづくりと全員参加の大切さでした。

そして、1997年のCOP3の京都議定書が採択された頃から、わが国でも地球環境の危機的状態が強く認識され、資源を枯渇させないように大切に循環的に使うこと、エネルギー消費量を節約して地球温暖化を極力少なくすることの大切さを思わずにはいられませんでした。スマートコミュニティ作りを目指しながら資源を大切に、太陽エネルギーを十分活用していきたいですね。利用可能な資源は地球上にしか存在しませんし、地球の受けている太陽エネルギーは全世界で使っているエネルギーの1万倍もあるのですから。

きょうとグリーンファンドの「おひさま発電所」などの活動への期待と共に継続的発展に微力ながらお手伝い出来ればと願っています。

### ・・・ 長屋 博久理事

みなさん、はじめまして。この度、理事となりました長屋博久(ながやひろひさ)です。よろしくお願いします。私が『地球環境』を考え始めたのは平成15年の事でした。当時、2人目の子どもが生まれ、会社員から自営業に転職したころでした。その後、きょうとグリーンファンドとも出会いました。『子どもたちの為に何ができるのか?』公私にわたり、常に考え行動することが大切と思っています。大きなことはできませんが、みなさんのお役に立てるよう頑張りますので、よろしくお願いいたします。

# ボランティア日記

4/22京エコロジーセンター10周年記念イベントにきょうとグリーンファンドは、「おひさまカフェ」を出店しました。今回はボランティアとして小学生のかわいい子ども店長2人をはじめ、たくさんの方にお手伝いいただきました。イベントの様子やボランティアの感想などを投稿していただきました。

## 子ども店長日記 ～初のボランティア～

「いらっしゃいませ。」今、ぼくはお客さん第一号をお迎えしているところである。

今日は、「京エコロジーセンター」というところで、お母さんの会社がやっている「おひさまカフェ」で、店長として働くことになったのだ。

ざんねんなことに、ぼくの初ボランティアの日は一日中雨だったのである。しかし、雨の日にもかかわらず、お客さんはいっぱい来てくれました。そういうことでいそがしい。

おっ、また来た。「コーヒー1ぱい。」とお客さん。

ぼくは、「250円です。」と言ったら、なんと500円がきた。えーと $500-250=250$ 円だ。

お客さんにおつりを返したあと、ペレットストーブにペレットを入れる。お湯をわかさないといけけないのだ。そんなことをしている内にコーヒーができた。すかさずお客さんに持っていく。

「ありがとう。店長。」このときをまっていたのだ。たった5秒の出来ごとなのに本当に気持ちがいい。

おっと、お客さんがお帰りだ。「ありがとうございました。」



・・・中山隼人くん (9才)

## 「おひさまカフェ」に参加して

京エコロジーセンター10周年記念イベント「ここからエコはっしん!」に参加しました。きょうとグリーンファンドは「おひさまカフェ」でおひさまのエネルギーでおいしいコーヒーを淹れるという素敵な企画です。

ところが、当日は大荒れの天気。最初はパラついていて雨が本降りになり、風も強く、テントが飛ぶのではないかと心配しました。こんな雨の中、わざわざエコセンにまで足を運ぶ人は少ないだろうと思っていましたが、なんと!続々と参加者の足は途絶えません。「おひさまカフェ」にもたくさんの方が来て下さいました。

お天気が良ければ“ソーラークッカー”でお湯を沸かしてコーヒーを淹れたり、ポップコーンを作ったり、という企画でしたが、残念ながら大雨ではかかないません。それで、急きよ、ペレットグリルを使ってお湯を沸かす作戦に変更。ペレットグリルは、懐かしいデザインで温かみのあるストーブという風情で、煙突からたつ白い煙が、ほっこりとした気持ちにさせてくれます。ところが、このペレットグリルも煙突から降り込む雨のために、火力がもひとつ勢いよくならずにお湯が沸きません。その間も、カフェのお客さんは続々詰めかけ、マスター也大わらわ。お客さんに出すコーヒーが間に合わなくなって、エコセンの炊事場をお借りしてお湯を沸かさせてもらいました。

ソーラークッカーやペレットグリルの威力は発揮できなかったけれど、色んなやり方で地球にやさしい方法を試みるという提案は充分発揮できたのではないかと感じました。

「おひさまカフェ」では、おひさまの絵を描いてもらうとカエルポイントと交換できるという企画もあり、たくさんの個性的なおひさまの絵ができました。また、カフェでは子ども店長さんが大活躍で、会計や宣伝、カエルポイントの発行と大忙しでした。最初、ちょっと戸惑っていた店長さんも終わるころにはすっかり自信に満ちた表情でいるのを見て、とても頼もしく思いました。

このイベントに参加されていた若い家族を見ながら、若い世代の親たちが、環境への意識を持つていくことで、子どもたちに受け継ぎ、地道でも継続して行動していくことが大事なんだなあと感じました。

・・・宮井和子さん



## 編集後記

・震災後1年余り、福島はどうなっているのか・・・、何の解決策も見えない中での大飯原発の再稼働。そんな時、相馬市の若い方がきょうとグリーンファンドを訪ねてこられました。「幼稚園に太陽光発電をつけたいのです」。何としてでも実現させたい、これはきょうとグリーンファンドがやるべき仕事、と思います。(K.O)

・総会が終わって、ホッとしました。さあこれからは、新しいおひさまプロジェクト頑張らねば・・・。皆さま、どうかご協力よろしく願います!(Y.F)

・再生可能エネルギーで発電した電力の買取制度が始まります。市民共同発電所の視点からこの制度をどのように捉えるべきなのか考え中です。(M.N)

・美山のプロジェクトがはじまります。そんな中、大飯原発再稼働決定。無力感さえ漂いますが、首相官邸前の再稼働反対デモの少年の叫びを聞くにつけ、やっぱり頑張ろう!と考え直す今日この頃です。(S.K)

## 《 ぐりふあん日誌 》

- |   |  |
|---|--|
| 2011年                                     | 3/30 相馬市／菊池基文さん<br>おひさま発電所について相談に来室<br>法然院森のセンターに感謝状持参 |
| 12/22 深草児童館現地調査、ヒアリング                     |  |
| 2012年                                     |  |
| 1/20 NPOと企業の協働フェスタ展示参加                    | 4/4 東本願寺青少年センター 池田朋行さん来室                               |
| 1/26 京都市市民協働発電制度に関する研究会(京セラ)              | 4/6 アースガーデン植月千砂さん来室                                    |
| 2/2 朝日新聞取材                                | 4/8 「ハナマツリ」(日吉町)に田歌舎と出展                                |
| 2/3 京都市市民協働発電制度に関する研究会<br>(おひさま進歩)        | 4/12 事業評価について中間報告(松本和晃さん)                              |
| 2/4 みんなのエネルギー・環境会議～若者編参加                  | 4/19 第87回理事会   |
| 2/6 京グリーン電力運営協議会                          | 4/21 京エコロジーセンター10周年記念シンポジウム参加                          |
| 2/18, 19 気候ネットワークシンポジウム出展                 | 4/22 京エコロジーセンター10周年記念イベント出展                            |
| 2/20 環境学習と見学会(向島保育園)                      | 4/24 京グリーン電力運営協議会                                      |
| 3/1 京都グリーン購入ネットワーク幹事会                     | 5/08 再生可能エネルギーWG                                       |
| 3/2 学習会「みんなでつくりよう節電所」                     | 5/16 おひさまプロジェクトの仕組み検討会                                 |
| 3/7 第86回理事会                               | 5/21 きょうとグリーンファンド2011年度監査                              |
| 3/11 オール京田辺・綴喜メモリアル行動にて講演                 | 5/24 東山やすらぎ・ふれあい館訪問、説明                                 |
| 3/12 環境学習と見学会(わかやき保育園)                    | 5/25 第88回理事会<br>2012年総会／ひと・まち交流館会議室                    |
| 3/14 京グリーン電力運営協議会                         | 5/30 京エコロジーセンター、京のアジェンダ21フォーラムと<br>伏見おひさまプロジェクトについて協議  |
| 3/15 京都府地域力再生プロジェクト支援事業について相談             | 5/31 京都府温暖化防止活動推進センター運営委員会                             |
| 3/21 京グリーン電力運営協議会報告会                      | 6/1 京都グリーン購入ネットワーク幹事会                                  |
| 3/23 田歌舎／藤原誉さんと打ち合わせ                      | 6/5 再生可能エネルギーWG定例会議                                    |
| 3/27 法然院梶田真章さんにプロジェクト10年のご挨拶<br>感謝状贈呈     | 6/14 「城陽原発ゼロの会」相談、協議<br>京都府職員の短期研修受入について、ヒアリング。        |
| 3/28 環境学習について打ち合わせ(玉井啓子さん)<br>再生可能エネルギーWG |  |

### □ 寄附のお願い

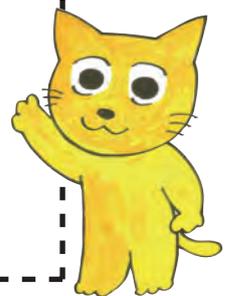
おひさま基金への寄附は随時お受けしています。

寄附の方法:ゆうちょ振替をご利用下さい。

**ゆうちょ銀行振替口座番号:00930-6-157817**

**加入者名:きょうとグリーンファンド**

★2010年5月1日付で国税庁から認定NPO法人として再認定されました。  
認定NPO法人への寄附は、税法上の特別措置の対象になります。



会員数	77
正会員	46
賛助会員	27
法人会員	4
	2012/5/25現在

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)

**きょうとグリーンファンド**

〒600-8191 京都市下京区五条高倉角塚町21 事務機のウエダビル206  
TEL/FAX ; 075-352-9150 E-mail ; info@kyoto-gf.org  
URL ; <http://www.kyoto-gf.org> (火～金 13:00～17:00)

